

障害者スポーツ 中継増え身近に

「障害者スポーツの魅力を伝えたい」。NPO法人STAND代表理事の伊藤数子さん(51)は、大会のインターネット中継の運営や、ウェブサイトでの記事の公開、スポーツイベントの開催などを通して障害者スポーツの普及に努めてきた。

昨年、スポーツ祭東京の車いすバスケット決勝は、伊藤さんが運営する「モバチュウ」と東京都が共同で生中継した。車いすバスケットは、障害者スポーツの中で競技性の高さを示す役割を持つ。そのダイナミックさを伝えるには生中継しかない。決勝はTBSの小笠原亘アナウンサーが実況し、元日本代表の京谷和幸さんが解説した。伊藤さんは「車いすバスケットをスポーツとして実況してくれたい」と振り返る。

3月のソチ冬季パラリンピックでは、スカパーが期間中24時間の放送枠を設ける専門チャンネルの開設を決めた。総放送時間は200時間に及ぶ。生中継も60時間確保され、日本のパラリンピック史上初の画期となる。Jリーグ中継などスポーツ専門チャンネルで知られるスカパーが乗り出したことで、障害者スポーツをスポーツとして捉える見方が増えると期待されている。

6年後の東京パラリンピックもゴールではなく、日本の社会を変える新たなスタートだと伊藤さんは強調する。障害者を特別な存在と捉えがち

な意識が、根本から変わった時こそ、20年東京パラリンピック開催の本当の意義が生まれる。

2014年(平成26年)1月20日(月曜日)

日 本 大 学 新 聞